

第2章 実践編

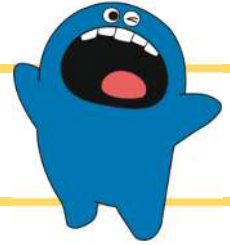


ここでは…

具体的な指導事例について記載しています。

- (1) 幼稚園における展開例
- (2) 小学校における展開例
- (3) 中学校における展開例
- (4) 高等学校における展開例
- (5) 特別支援学校における展開例

です。



指導事例の活用に当たって

性に関する指導は、人間尊重、性別に関わらず誰もが平等であるという精神に基づき人格の発達を目指す指導であり、人間としての在り方、生き方に直接に係る教育活動である。

近年では、児童・生徒等の性意識・性感情の形成や性行動の低年齢化・活発化、あるいは社会における性情報の氾濫や性の価値観の多様化、複雑化などにより、性に関する指導における課題も多様になってきている。

そのため、学校における性に関する指導は、常に児童・生徒等の実態等を的確に把握し、社会の変化などにも十分対応しつつ、特定の教科や領域としてではなく、学校教育活動全体を通じて効果的に進められるようにすることが大切である。

各教科、特別の教科 道徳、特別活動の内容には体の発育・発達や性に関する事柄が含まれているが、それらは、必ずしも性に関する指導の目標を実現するために選択されたものとはいえない。

そのため、学校における性に関する指導を計画的、体系的に実施するためには、各学校の性に関する指導の目標を実現するために必要な内容を適切な学年や時期に位置付けるなど、それらの指導学年や時期なども検討した上で、各教科、特別の教科 道徳、特別活動等の内容と関連付け、学校の教育課程に位置付けることが必要となる。

その際、児童・生徒等が自ら学び、考えることによって自己の生き方を築いていくためにふさわしい、すなわち「生きる力」の育成に役立つような内容に精選することが求められる。学校における性に関する指導を生涯学習の一環として位置付け、児童・生徒等が学校における性に関する学習を生涯にわたる重要な課題の一つと捉えさせるとともに、各発達段階において解決すべき課題に気付かせ、解決に必要な事柄を考えさせることによって、解決のための実践的な能力や資質を身に付けさせることが重要である。

なお、本手引きに掲載している指導事例については、あくまでも例であり、各学校、各クラス等の実態に合わせて、子どもたちにとって深い学びにつながるよう、指導内容について計画していただきたい。

幼稚園における展開例



4歳児・5歳児「じぶんのからだは、とってもだいじ」 (就学前教育)

1. 題材名 じぶんのからだは、とってもだいじ

2. 幼児期におけるねらい

○自分と相手の体を大切にできるようにするために、以下について、幼児の発達段階に応じてできるようにしていく。

- ・自分の体は自分だけのものであり、大切にすること。
- ・自分だけの大切なところ（「水着で隠れる部分」等）は、見せたり、触らせたりしてはいけないことを意識すること。（水着で隠れる部分は、「プライベートゾーン」、「プライベートパーツ」といわれることもある。）
- ・自分の体を見られたり、触られたりして嫌な気持ちになったときの対応方法を身に付けること。
- ・自分の体と同様に、相手の体も大切にすること。
- ・相手の大切なところを見たり、触ったりしてはいけないことを意識すること。

3. 題材について

幼児期の教育は生涯の人格形成の基礎を培う重要なものである。そのため、園での生活や他の幼児とのかわりを通して、自分自身を大切にすること、相手を尊重する気持ちを育てていくことが大切である。そして、これらを基盤に、自分と相手の大切なところを守るルール、自分の体を見られたり、触られたりして嫌な気持ちになったときの対応方法について、遊びや日常生活を繰り返し伝えることが重要である。

また、異性の体の違いに気付き、興味をもち始める幼児もいる。幼児を性暴力の加害者・被害者にしないためにも、「自分だけの大切なところ」という言葉を知らせ、「自分の体は自分で守る」という意識を育てるようにするとともに、相手の体も大切にできるようにすることが大切である。

そこで、この題材では、「自分の体も相手の体も大切にしよう」という気持ちを育むとともに、自分の体を見られたり、触られたりして嫌な気持ちになったときの対応方法について教材を紙芝居形式にして伝える。ただし、幼児期は遊びや生活を通して学ぶ時期であることから、紙芝居の活用のみではなく、園での生活の中で機会を捉えて指導することが大切である。その際は、紙芝居をテーマごとに切り分けて使用する。例えば、プール等、一斉に着替える場面があるときに、「じぶんだけのだいじなところ」のテーマの部分を用いて、自分だけの大切なところについて伝えるなど、効果的な場面を捉えて指導する。



4. 活動内容

テーマ	内容	指導上の留意点	教材等
じぶんのからだ	○自分の体は自分だけの大切なものであることに気付く。 ○相手の体も大切であることを理解する。	・自分の体を大切にするためにできることが何かを考えさせる。 ・自分自身を大切にすること、相手を尊重する気持ちを育むことを基盤に、幼児の疑問や気付きを大切にすることで、幼児なりにその必要性を理解できるようにする。 ・けがをしたときや行事等でも「自分の体も相手の体も大切にしよう」という気持ちを育むようにする。	教材 P.1~6

じぶんだけの だいじなところ	<p>○自分だけの大切なところ(「水着で隠れる部分」等)に気付く。</p> <p>○自分だけの大切なところは見せたり、触らせたりしてはいけなことを理解する。</p> <p>○相手の大切なところを見たり、触ったりしてはいけなことを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水着で隠れる部分だけではなく、口や顔、その他の部分を含め、どのような場所が大事か、具体的な場面を思い起こさせながら、自分の体は全てが大切であることを伝える。 ・実際の性暴力においては、水着で隠れる部分への接触だけでなく、体をなでる、顔にキスをするといった行為が多いことを念頭に、「水着で隠れる部分」のみが大事であるという伝え方にならないよう注意する。 ・家族や身近な人から性暴力被害を受けている幼児がいる可能性があることを意識した上で、指導する必要がある。 ・性暴力被害を受けた、もしくは受けている可能性がある幼児がいれば、特に注意深く様子を見守ったりするなど配慮する。また、必要に応じて支援をする。 	教材 P.8～12
いやなきもち	<p>○嫌な気持ちになる触り方について考え、対応方法を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で起こり得る、急に抱きついたり、着替えをじろじろ見たりするような場面を通して、自分の体に触られて嫌な気持ちになったり、びっくりしたりする触り方が嫌な触り方であることに気付かせる。 ・嫌な触られ方をしたときに相談する「安心できる大人」について考えさせ、例として、園の教職員や家族等がいることを伝える。 ・嫌な触られ方をしたときの対処法について考えさせ、もし嫌な触られ方をしたときにはどうしたらよいか、具体例をもとに確認する。 	教材 P.13～18

5. 展開例「いやなきもち」

- (1) 本時の目標 ・嫌な気持ちになる触り方について考え、対応方法を知る。
- (2) 展開 : 発問・指示など

主な活動	○指導上の留意点
<p>みんなで遊んでいるとき、びっくりしたり、いやなきもちになったりするさわられかたをしたことがあるかな。どんなときかな。</p> <p>いきなりさわられたり、じろじろみられたりしたら、びっくりしたり、いやなきもちになるよね。</p> <p>じぶんだけのたいせつなところさわられていやなきもちになったら、どうすればいいかな。</p> 	<p>○日常生活での場面を通して、自分の体に触られて 嫌な気持ちになったり、びっくりしたりする触り方があることに気付かせる。</p> <p>○遊びの中でも嫌がるのを無理に誘ったり、自分にされて嫌なことを他の幼児にもしたりしないことを確認する。</p> <p>○性的ないじめにつながるスカートめくりやズボン下ろし等も嫌な触られ方であることを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>もし嫌な触られ方をしたときには、「いやだという」、「逃げる」、「安心できる大人に言う」ことを確認する。</p> </div>  <p>○「安心できる大人」について考えさせ、園の教職員や家族等がいることを伝え、すぐに相談することも確認する。</p> <p>○相談のシミュレーションをするなど、より具体的な伝え方について練習できるとよい。</p>

- (3) 資料等 ・文部科学省ホームページ「生命の安全教育教材（幼児期）」

6. 保護者への対応

○家庭との連携を十分に図り、保護者への「性に関する指導」や「生命の安全教育」に関する理解が深まるよう、配慮する。

○保護者から相談が寄せられた場合は、状況に応じて専門機関の紹介を行うなど、対応を事前に検討しておく必要がある。

小学校における展開例



低学年「じぶんのからだ」(特別活動)

1. 題 材 名 「じぶんのからだ」

※文部科学省ホームページ「性犯罪・性暴力対策の強化について」教材等より

2. 教育課程上の位置づけ

特別活動 学級活動(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

イ より良い人間関係の形成

学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること。

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

3. 指導の目標

- (1) 自分の体の大切さに気付くとともに、他の人の体も大切にしようとするができるようにする。
- (2) 自分の体を見られたり、触られたりして嫌な気持ちになる場合について考え、このような場面で身を守る対応方法を身に付けることができるようにする。

4 本時の指導

(1) 指導のねらい

○低学年の児童にとって、身体的な痛みや不快感といった感覚は気付きやすく、その対策も経験の中から身に付けている場合が多いが、普段から自分の体を大切に守ろうという意識を持つのは難しい。本時を通して、自分の体を大切に守るということや、そのために取るべき対策を考え始め、日常生活で実践する契機としたい。

(2) 学習方法

- けがをした時の対応をイメージする。(友達がけがをした場合の対応も考える。)
- 自分の体(特に人には見せない部分)を大切にすることをイメージする。
- 体のことで嫌な気持ちになったり、させてしまったりする場面を考え、対応を学ぶ。

(3) 評価規準


○自分の体を大切にする方法や、いやな気持ちになる場合の対応について考え、判断している。

(4) 指導上の重点・配慮事項

○友だちからのいじめや虐待等の経験がある児童を事前に把握できている場合には、事前に保護者等へ情報提供したり、個別面談を行ったりしたうえで授業を行う。

5. 授業展開例

：発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点
主な学習内容・学習活動	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体は自分だけの大切なものであることを理解する。 他の人の体も大切であることを理解する。 <p>自分の体を大切にするためにできることを考えよう。</p>	<p>○日常生活の場面のイラストを示して、自分の体は自分だけのもので大切であることを伝える。例えば、けがをしたときは、痛くなくなるようにしたり、けがが治るようにしたりすることで、自然と自分の体を大切にしていることを伝える。同様に、他の人の体も大切であることを伝える。</p> <p>○自分の体を大切にするためにできることは何かを考えさせる。(例 食べる、寝る、運動する等)</p>
	<p>自分の体を触られて嫌な気持ちになる場面について考え、対応方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分だけの大切なところ(「水着で隠れる部分」等)を知る。 自分だけの大切なところは、人に見せたり、触らせたりしてはいけないことを理解する。 他の人の大切なところを、見たり、触ったりすることもいけないことを理解する。 <p>考えた対応方法を発表しよう。</p>	<p>○水着で隠れる部分だけでなく、どのような場所が大切か考えさせる。(口、顔、頭…など考えを広げる。)</p> <p>○日常生活の場面のイラストを示して、自分だけの大切なところを守るためのルールを伝える。</p> <p>○日常生活の場面のイラストを示して、他の人の大切なところを守るためのルールを伝える。</p> <p>○自分の体を触られてびっくりしたり、嫌な気持ちになったりする場面について考えさせる。</p> <p>○嫌な触られ方をしたときに相談する「安心できる大人」について考えさせ、例えば学校の先生や養護教諭、家族等がいることを伝える。</p> <p>○もし、嫌な触られ方をしてしまったも、「触られた人が悪いわけではないよ」ということを伝える。</p> <p>○加害経験がある児童を個人的に責めるような発言をしてはいけない、という指導が必要である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>嫌な触られ方をしたときの対処方法を考え、全体で確認する。</p> </div> 
	<p>自分の体を大切にするためにできることを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のふり返りを記入する 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>自分のいのちや体を大切にするために、自分ができるところを考えるようにする。</p> </div>

※参考資料等

- ① 文部科学省 生命の安全教育 指導の手引き (小学生低・中学年)
- ② 同 小学生 (低・中学年) 向け 教材例

6. 他教科等との関連

生活科 (2) 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。

特別の教科 道徳 [節度・節制]・[生命の尊さ]

小学校における展開例



第1学年「がっこうだいすき」(生活科)

1. 単元名 「がっこうだいすき」 学習指導要領 内容(1)

2. 単元の目標

学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友だち、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

3. 単元について

性暴力の被害者を防ぐという視点から、入学間もない児童に、安全な登下校について指導することは重要である。この単元での学校生活に関わる活動とは、学校の施設に加え、通学路にあるものを見付けたり、そこにいる人と触れ合ったりするなどして安心して学校生活を送ることができるようにすることである。そのために学校の中を探検する活動に加えて、通学路を歩いて様々な発見をする活動を行うことが考えられる。

この単元では、児童が、学校の施設の様子、学校生活を支えている人々や友だち、通学路やその安全を守っている人々の存在を知り、自分とどのように関わっているかを考えていく。児童を取り巻く環境が変化する中、登下校も含めて、楽しく安心で安全な生活ができるようにすることが課題となっている。ここでは、人通りの少ないところや車が多い道など、危険な個所を確認するとともに、子ども110番の家を確認することや、児童の安全を見守る地域ボランティアの人などとの関わりを持つことなども考えられる。また、危ないことや困ったことがあったときに、助けを求めることができる場所や人を見付けることも考えられる。

こうした活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、自分で自分の身を守り、安全な登下校をしたりしようとすることを目指していく。

4. 単元計画 (スタートカリキュラムとして関連する教科等と横断的に扱う)

時間	学習項目	目標	学習活動
第1～4時	学校のことを知ろう	・友達と教室や学校を見て回り、園の施設と同じところや違うところを探しながら、学校の施設の場所や使い方に気付き、安心して学校生活ができるようにする。	○学校での過ごし方や、教室や施設の使い方を考える。 ○友達と自己紹介をしたり、遊んだりする。
第5～7時	みんなと仲良くなる	・友達や学校生活を支える人と関わり、友達の存在やよさに気付き、安心して学校で遊びや学習をすることができるようにする。	○校庭や学校の中を歩いてめぐり、見つけたものや出会った人について絵カードに書いて掲示する。 ○友達と校庭の遊具や生き物を探して遊んだり学校を探検したりする。
第8～10時	学校を探検しよう	・友達のもっている施設の情報と自分の思いを照らし合わせて、学校の中で探検したい場所を選び、実際に探検して学校の施設の特徴に気付くことができるようにする。	○掲示した絵カードをヒントに班ごとに学校探検に行く。 ○出会った人、見つけた物、ことについて伝え合い、知りたいことを話し合い、別の場所へ学校探検に行く。

第 11～13 時	学校にいる人と仲よくなる	・学校にいる人を見付けることや話しかけることを通して、学校にいる人々の働きや役割に気づき、繰り返し関わろうとすることができるようにする。	○出会った人について気付いたことを話し合い、出会った人は何のためにどんな仕事をしているのか、観察したりインタビューしたりする。
第 14～15 時	見つけたことを伝え合おう	・学校を探検して見つけたことを友達と伝えあい学校生活は様々な人や施設に支えられていることに気づき、安心して学校生活ができるようにする。	○学校探検で出会った人、見つけた物から伝えたいことを決め、絵や実物、画像、動画等を使って発表し合い、気付いたことを話し合う。
第 16～19 時	通学路を歩こう	・みんなで通学路を歩き、自分の登下校の様子を思い起こしながら、安全を守るための 110 番の家や地域ボランティアの人に気付くことができるようにする。	○通学路にある安全を守るための物や人について話し合い、学校周辺の通学路のコースをみんなで歩く計画を立て、実際に歩いてみる。
第 20 時	見つけたことを伝え合おう	・通学路を歩いて見つけたことを友達と伝えあい、登下校は様々な人に支えられていることに気づき、安心して学校生活ができるようにする。	○通学路で出会った人、見つけた物を、画像、動画等を使って発表し合い、気付いたことを話し合う。


5. 展 開 例 (20/20)

(1) 本時の目標

- ・通学路を歩いて見つけたことを友だちと伝えあい、登下校は様々な人や施設に支えられていることや、危ないことや困ったことがあったら助けを求めることができることに気づき、安心して登下校ができるようにする。(知識及び技能の基礎)

(2) 展開 □ : ねらい ■ : 学習内容 ■ : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
主な学習内容・学習活動	・通学路を歩いたことについて思い出し、どのような発見があったか学級全体で共有する。	○前時にみんなで歩いた通学路について思い出し、出会った人、見つけた物についていくつか思い出す。
	<p>・本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center;">通学路で見つけたことを伝え合おう。</div> <p>・出会った人や見つけた物、場所などについて、グループの友だちと話しながら振り返る。</p> <div style="background-color: orange; padding: 5px; border-radius: 10px;">みんなは通学路で、どんな人と出会いましたか。また、どんな物を見つけましたか。グループの友達といっしょに思い出してみましよう。</div>	<p>○見つけた物や場所について、グループの中で順番に紹介するよう声かけする。</p> <p>○発言ができない子には、写真や動画などを活用して振り返りながら発言するよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の安全を守る人 ・安全に登下校できるように見守る人 など ・会うとあいさつをしたり、笑顔で見送ってくれたりしてくれる ・交番 ・「子ども 110 番の家」 ・ピーガールくんのステッカー など

<p>通学路で危ないことや困ったことがあったら、みんなはどうしますか。グループの友だちと考えてみましょう。</p>	<p>○交番や「子ども 110 番の家」の他にも、お店やコンビニ、スーパー、児童館、幼稚園など、たすけをもとめるところについて出し合う。</p> <p>危ないことや困ったことがあったら、自分から声を出したり、安心して逃げられる場所を知っておいたりするなど、具体的に行動できるようにしておく。</p> 
<p>通学路には自分たちの安全を守ることに関わっている人や場所がたくさんあることに気付く。</p>	<p>◆通学路には自分たちの安全に関わっている人や場所がたくさんあることに気付いている。(知識及び技能の基礎) (発言)</p>
<p>通学路で出会った人、見つけた物を見ながら、話し合ったことをグループごとに紹介してください。</p> <p>・自分たちが毎日通る通学路で新しい発見があったらカードに絵を描いて教室の発見コーナーに掲示することを確認する。</p>	<p>○グループで話し合った内容をいくつか紹介する。 ○必要に応じて、画像、動画等を使って発表する。</p> <p>例：人通りが少ない場所にも「子ども 110 番の家」があって、安心した。 困ったときには、児童館に助けを求めることができるとわかった。</p>

(3) 資料等

スタートカリキュラムスタートブック 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成 27 年 1 月
 発達や学びをつなぐスタートカリキュラム 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成 30 年 3 月

6. 他教科等との関連

スタートカリキュラムとして、教科等横断的に扱う：国語、算数、音楽、図工、体育、道徳、学活

小学校における展開例



第2学年「ときどき わくわく まちたんけん」(生活科)

1. 単元名 「ときどき わくわく まちたんけん」

2. 単元の目標

地域の様々な場所を訪問したり利用したりする活動を通して、地域の場所と自分との関わりを見つけ、地域には様々な場所があり、様々な人がいることに気付くとともに、地域の場所や人に親しみをもち、適切に接したり、安全に気を付けて生活したりしようとするができるようにする。

3. 単元について

2年生となった児童は、成長とともに、学校や家庭を中心とした生活から、友だちや地域の人々、身の回りの環境などのかかわりを通して、自分たちの地域へと生活の場を広げていく。地域で友達と遊んだり、買い物をしたり、子ども会の活動に参加したりするなどして、様々な人々や場所と関わって生活するようになっていく。

地域とのかかわりをさらに深めていくために、実際に地域にでかけ、地域で生活したり働いている人々の姿を見たり話を聞いたりするなどして、地域の物や場所、地域の人、それらが自分とどのように関わっているかを考えることを体験させたい。その中で、自分の身の回りには、様々な場所があり、様々な人たちが生活していること、そこには様々な仕事があり、それらの仕事に携わっている人たちがいること、それらの関係や自分との関わりに気付く必要がある。

さらに、性暴力の被害の防止という視点からも地域での子どもたちの安全な生活に向けては、児童自身が事故やけがなどがなく、安全に生活できると同時に、安全で安心な場所としての地域の一員になることが大切である。そのためには、安全に気を付けながら、遊んだり場所や物を使ったり、人々と接したりすることが必要となる。地域の人々や場所や実際に関わることを通して、より安全な遊び方や場所・物の使い方、人との接し方を児童自身が身に付けるようにしていくことが望まれる。

4. 単元計画

時間	学習項目	目標	学習活動
第1時	まちのことをはなそう	・友達と身近な地域のことを話す中で、自分の知っている場所やまだ知らない場所などいろいろな場所があることに気づき、地域に探検に行きたいという思いを高めることができるようにする。	○地域で、自分のお気に入りの場所や興味のある場所、不思議に思っている場所などについて話し合う。
第2時	たんけんの計画を立てよう	・行ってみたい場所や見て見たいものを思い描きながら、友達や自分の生きたい場所や時間に応じて、探検する場所を調整したり、順番を変えたりして、探検の計画を立てようとするができるようにする。	○探検に行きたい場所について話し合い、探検先ごとのグループをつくる。
第3時			○グループごとに探検の計画を立て、計画表に記入する(探検する順番や通る道、役割、持ち物、探検の

			ルールやマナーなど)
第4時			○探検の計画や、探検のルール・マナーを確認し、探検にでかける準備をする。
第5～7時	まちたんけんをしよう	・定められた時刻を守って地域を探検する中で、見つけた物や場所について自分の生活と結びつけながら地域の人に質問し、それらの場所や物が自分の生活と関わっていることに気付くことができるようにする。	○グループごとに探検に行く。
第8時	見つけたことをつたえ合おう	・探検で見つけたことを交流する中で、地域には自分たちの安全な生活や楽しい生活に関わっている場所がたくさんあることに気付く、それらを自分たちの生活に取り入れようとするようにする。	○探検で見つけたことをグループごとに振り返り、気付いたことを記録カードにかく。
第9時			○見つけたことの中で、いちばん伝えたいことを付箋にかき絵地図に貼る。
第10時			○絵地図を見ながら、自分たちが見つけたことやわかったことなどを発表する。


5. 展開例(8/10)

(1) 本時の目標

- ・探検で見つけたことを交流する中で、地域には自分たちの安全な生活や楽しい生活に関わっている場所がたくさんあり、危ないことや困ったことがあるときに助けてくれる施設があることに気付く。(知識及び技能の基礎)

(2) 展開 □ : ねらい ■ : 学習内容 ■ : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
主な学習内容・学習活動	・まちたんけんに行ったことについて思い出し、どのような発見があったか学級全体で共有する。	○前時に行った、まちたんけんについて思い出し、見つけて「すごいな」と思ったことを中心にいくつか共有する。
	・本時のめあてを確認する。	
	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> まちたんけんで見つけた物や場所について、グループごとに振り返ろう。 </div> ・見つけた物や場所について、グループの友だちと話しながら振り返る。 <div style="background-color: orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> みんなはまちたんけんで、どんな物を見つけましたか。また、どんな場所を見つけましたか。グループの友達といっしょに思い出してみよう。 </div> ・わたしのまちの「すてきなところ」、「自分たちの生活に関係しているところ」、「新しく発見したこと」などを「見つけたよカード」にまとめる。	○見つけた物や場所について、グループの中で順番に紹介するよう声かけする。 ○発言ができない子には、たんけんの計画書を見て、振り返りながら発言するよう促す。
		○「見つけたよカード」にまとめる際の視点を示す。 <input type="checkbox"/> すてきなところ ・自然公園

<p>みんながまちたんけんで見つけてきた物や場所について、このまちの「すてきなところ」「自分たちの生活に関係しているところ」「新しく発見したこと」に分けながらまとめましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川沿いの桜並木 ・花畑 など <p>□自分たちの生活に関係しているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交番 ・こども 110 番の家 ・児童館 など <p>□新しく発見したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツバメの巣がある建物 ・レンゲの花が咲く空き地 ・大きなおまんじゅうのあるお菓子屋さん など
<p>地域には自分たちの安全な生活や楽しい生活に関わっている場所がたくさんあることに気付く。</p>	
	<p>◆地域には自分たちの安全な生活や楽しい生活に関わっている場所がたくさんあることに気付いている。【知・技の基礎】（行動観察・見つけたよカード）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>地域には自分たちの安全を守ってくれている人や、困ったことがあるときには助けてくれる施設があることに気付かせる。</p> </div> 
<p>・「見つけたよカード」に書いたことを学級全体で紹介し合う。</p> <p>「見つけたよカード」にまとめた、このまちの「すてきなところ」「自分たちの生活に関係しているところ」「新しく発見したこと」をグループごとに紹介してください。</p> <p>・次回は、「見つけたよカード」をもとに、学級の「まちたんけんマップ」を作ることを知る。</p>	<p>○「すてきなところ」、「自分たちの生活に関係しているところ」、「新しく発見したこと」などのそれぞれの視点に分け、「見つけたよカード」に書いた内容をいくつか紹介してもらおう。</p> <p>例：自分たちの生活に関係しているところ 「こども 110 番の家が、いろいろなところに、たくさんあった。」</p> <p>○見つけた物や場所についてまとめる「まちたんけんマップ」のもと（白地図）を見せる。</p>

(3) 資料等

○見つけたよカード

「まちたんけん」見つけたよカード		名前
すてきなところ	生活にかんけいしているところ	あたらしくはっけんしたところ

小学校における展開例



第2学年「大きくなるっていうことは」(生活科)

1. 単元名 「大きくなるっていうことは」

2. 単元の目標

自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いを持って、意欲的に生活しようとする。

3. 単元について

自分の成長を実感し、その喜びを感じ、感謝の気持ちを持つことは、夢や希望を持って、前向きに生活していくために大切なことである。

この単元では、自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活できるようにすることを目指している。

体が大きくなるなどして心も体も成長したこと、技能が習熟し様々なことができるようになったこと、自分の役目が増え役目を果たすことができるようになったことに加え、優しい気持ち、他者への思いやり、我慢する心など内面的な成長に気付きを深めていくことも大切である。それぞれの児童が自分の成長を多面的に振り返るとともに、自分の成長を支えてくれた人々との関わりを意識していくことが大切である。

4. 単元計画

時間	学習項目	目標	学習活動
第1～3時	大きくなった自分のことを振り返ろう	・これまでの作品などを手がかりに、過去と現在の自分を比較しながら、自分の成長について振り返る中で、自分でできるようになったことや大きくなったことに気付き、もっと自分のことについて調べることができるようにする。	○クラスで掲示物や写真を手がかりに、入学からの2年間を振り返る。 ○自分の作品などを見て、2年間の成長を振り返る。 ○それぞれの振り返りをまとめ、グループで話し合う。
第4～9時	大きくなった自分のことを調べよう	・自分のことを知りたいという思いを持ち、振り返ったことや聞き取ったことをもとに自分の成長について調べる中で、優しさや思いやり、我慢する心など、内面の成長に気付くことができるようにする。	○友達との関わりを振り返り、互いのステキなところを交換し合う。 ○お世話になった人に自分の成長についてインタビューする。 ○これらを手がかりに、自分の成長について考え、グループで話し合う。

第 10～18 時	大きくなった自分のことをまとめよう	・自分の成長についてまとめたいという思いをもち、最も表現したいことを選ぶ中で、自分自身のよさや可能性に気付くことができるようにする。	○調べたことをもとに、何について、どのように工夫して表現するか決め、まとめていく。 ○友達と紹介し合い、振り返る。
第 19～27 時	支えてくれた人へのありがとうの気持ちを伝えよう	・自分の成長と、それを支えてくれた人を関連付け、感謝の気持ちを伝える中で、自分はたくさんの人に支えられて成長していることに気付き、これからは意欲的に生活しようとする事ができるようにする。	○自分の成長についてのまとめを発表する会に招待したい人を決め、発表会の計画を立て、準備をし、発表会を開く。 ○発表会を振り返り、話し合う。


5. 展開例 (4/27)

(1) 本時の目標

- ・友だちとの関わりを振り返る活動を通して、友だちのよいところに気付くとともに、自分のよいところやできるようになったことに気付くことができるようにする。(知識及び技能の基礎)

(2) 展開 □ : ねらい ■ : 学習内容 ■ : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
主な学習内容・学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の生活の中で気付いた、友だちのよいところについて発言する。 ・ 自分のよいところについても発言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数名の児童の気付きを取り上げ、「よいところ」とそのことに気付けた発表者を認める。 ○ 自分のよいところについて、気付いたことを発言するように促す。(多く出てこないことについて触れ、自分のよいところ探しは難しいことを確認する。)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;">友だちのよいところ、自分のよいところやできるようになったことに気付こう。</div> <div style="background-color: orange; padding: 5px; margin: 10px 0;">「ここがいいねカード」に、友だちのよいところを書きましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の生活などを振り返りながら、活動班の友だちのよいところについて、自由にカードに書く。 <div style="background-color: orange; padding: 5px; margin: 10px 0;">「ここがいいねカード」に書いたことを、友だちに伝えましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ カードに書いたことを読みながら、友だちのよいところを伝える。 ・ 互いのカードを交換し合う。 <div style="background-color: orange; padding: 5px; margin: 10px 0;">友だちからもらった「ここがいいねカード」を見直しましょう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちの書き進め方を見守りながら、具体的な場面などをイメージするよう声をかける。 ○ 相手のよいところだけでなく、自分の気持ちも書き足すとより伝わりやすくなることをアドバイスする。 ○ 活動班の友だちのよいところを書き上げた子には、他の活動班の友だちのよいところについても書くように促す。 ◆【友だちのよいところについて気付いている。】(知識・理解の基礎) ○ カードに書いたことを、友だちに読んで聞かせてから渡すよう伝える。 ○ カードの交換の様子を見守りながら、交流が進まない児童に声をかける。 ○ 事前に担任が書いておいたカードも、子どもたちに渡していく。 ○ 何枚のカードを書いてももらったかではなく、書いてもらった内容が大切であることを伝える。

<p>・友だちからもらったカードを見直し、自分のよいところやできるようになったことについて考える。</p> <p>自分にはどのようなよいところがあるか、またどのようなことができるようになったかを、具体的に考える。</p>	<p>○一人ひとりがもらったカードを一緒に見ながら共感する。</p> <p>「カもち、食べるのが速い」のような身体の成長に関する発言が出たら、体の発育には個人差があること、一人ひとりの違いを認め合うことなどを全体で確認する。</p> 
<p>友だちと「ここがいいねカード」を交換して、感じたことを、振り返りシートに書きましょう。</p> <p>・振り返りシートに感想を記入する。</p>	<p>○友だちからカードをもらって、どのような気持ちになったかを書くように声かけする。</p> <p>◆【自分のよいところやできるようになったことについて気付いている。】（知識・技能の基礎）</p>

6. 他教科等との関連

- ・発表会の準備について教科横断的に扱う：国語、音楽、図工、道徳、学活

小学校における展開例



第3学年「個人情報について考える」(特別の教科 道徳)

1. 教材名 「動画を無断でアップロードしたら…」

2. ねらい (本時の目標)

情報の扱いについて、人に流されることなく、善悪を判断し、適切な行動をとろうとする実践意欲と態度を育む。

3. 内容項目について (小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説より一部抜粋)

児童が性暴力の加害者、被害者、傍観者とならないようにするためにも、人として行ってよいこと、社会通念として行ってはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期から徹底して身に付けていくべきものである。よいこと、正しいことについて、人に左右されることなく、自ら正しいと信じるところに従って、誠実かつ謙虚に行動することは、人として重要なことである。特に、価値観の多様な社会を主体的に生きる上での基礎を培うために、よいことと悪いこととの区別が的確にできるように指導しておくことは重要である。


4. 内容項目の指導の観点 (小・中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) より抜粋)

	小学校 第1学年及び第2学年	小学校 第3学年及び第4学年	小学校 第5学年及び第6学年	中学校
善悪の判断、自律、自由と責任	よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。	正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。	自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。	自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。
	指導に当たっては、積極的に取り組むべきよいことと、人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養うことが大切である。また、よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こさせるなどして、小さなことでも遠慮しないで進んで行うことができる意欲と態度を育てる指導を充実していくことが大切である。また、身近な事例を踏まえ、人としてしてはならないことをしないことにつ	指導に当たっては、正しいことを行えないときの後ろめたさや、自ら信じることに従って正しいことを行ったときの充実した気持ちを考え、正しいと判断したことは自信をもって行い、正しくないと判断したことは行わないようにする態度を育てる必要がある。特に、正しくないと考えられることを人に勧めないことはもとより、人から勧められたときにきっぱりと断ったり、正しくないと考えられることをしている人を止めたり	指導に当たっては、自由と自分勝手との違いや、自由だからこそできることやそのよさを考えたりして、自由な考えや行動のもつ意味やその大切さを実感できるようにすることが大切である。また、自由に伴う自己責任の大きさについては、自分の意志で考え判断し行動しなければならない場面やその後の影響を考えるとなどを通して、多面的・多角的に理解できるようにすることが重要である。そのことが、自らの自律的で責任のある行動につ	中学校ではまず、自己の気高さに気付かせ、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても、自ら考え、判断し、自分の自由な意志に基づいて決定し、それに対して責任をもたなければならぬことを実感させる必要がある。 自由を放縦と誤解してはならず、自らを律し、自分や社会に対して

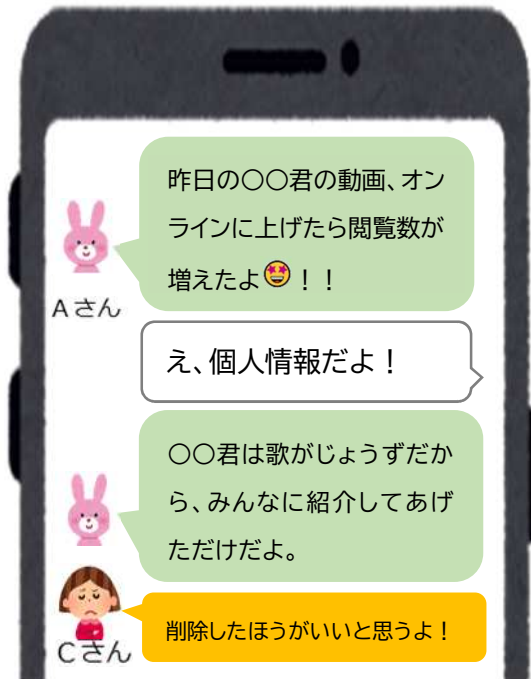
<p>て、一貫した方針をもち、毅然とした態度で指導していくことが重要である。</p>	<p>できるように指導することが大切である。</p>	<p>いてのよさの理解を一層深めることにつながる。</p>	<p>常に誠実でなければならぬことを自覚し、人間としての誇りをもった、責任ある行動がとれるように指導することが大切である。</p>
--	----------------------------	-------------------------------	---

5. 展開例 (1/1)

(1) 展開

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
主な学習内容・学習活動	<p>【導入】</p> <p>○YouTube等、オンライン上の動画を見たことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT等を活用した事前アンケートの結果を発表。 <p>○自分の動画をYouTube等で公開したいと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT等を活用しアンケートを実施、結果を発表。 ・アンケートの結果をもとに、小グループで意見交換。 	<p>○自分自身の動画が掲載されることについて、様々な考え方があることに気づく。</p>
	<p>【展開】</p> <p>○「え、個人情報だよ」と言われたとき、Aさんはどんなことを思ったでしょう。</p> <p>○Cさんは、どのような気持ちで、「削除したほうがいいと思うよ」と答えたのでしょうか。</p>	<p>○小グループでの話し合いを中心に、様々な立場の考え方に触れ、人として行ってよいこと、社会通念として行ってはならないことをしっかりと区別できるようにする。</p> <p>○正しいと判断したことは自信をもって行い、正しくないとは判断したことは行わないようにする態度を育む。</p> <p>◆自分だったらこうする。こうしたいと思っても中々できないかもなど、今までの自分を見つめ、自分事として考えている。</p> <div data-bbox="930 1355 1433 1641" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「個人情報」についての内容を確認し、個人を特定される情報の書き込みはしないこともおさえる。</p>  </div>
	<p>【終末】</p> <p>○今日の授業を通して考えたこと。また、自らを信じ、正しいと思って行動したことについて書く。</p>	<p>◎自ら信じることに従って正しいことを行ったときに、充実した気持ちになった経験を共有する。</p>

(2) 資料等



文字だけのやり取りだと、気持ちのすれ違いが起きるかもしれないね。



動画を勝手にオンラインに上げることは、危険だと思うけど、どうやって削除するように伝えたらいいか悩むよ。

友達の動画を無断でアップロードAさん。「えっ、個人情報だよ」と言われたとき、Aさんはどんなことを思ったか考える。

Cさんは、どのような気持ちで「削除したほうがいいと思うよ」と答えたのか考える。

6. 他教科等との関連

○「情報モラル」については、学級活動で、「スマホ・携帯電話の使い方」について話し合うなど、全教科で関連づけた学びを行うことが大切である。

小学校における展開例



第4学年「体の発育・発達」(体育科 保健領域)

1. 単元名 「体の発育・発達」

2. 単元の目標

- (1) 体の発育・発達について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解することができるようにする。
(知識及び技能)
- (2) 体がよりよく発育・発達するために、課題を見付け、その解決に向けて考え、それらを表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 体の発育・発達について関心を持ち、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

本単元では、思春期の体つきの変化や初経・精通について大人の体に近づく具体的な現象として捉えさせ、近い将来起こったときに不安にならないよう指導する。また、体つきに変化が現れていない児童は実感がなく、変化し始めている時期の児童は恥ずかしいと思いがちである。したがって、自分の体の変化や個人による発育の違いなどについては、自分のこととして実感させるとともに肯定的に受け止めさせるよう配慮するものとする。さらに、単元最後に思春期の体の発育・発達には、適切な運動、食事、休養及び睡眠などが必要であることについて、学んだことを自分の生活と関連付けて考えることで、現在における自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとすることができるようにするものである。

4. 単元計画

	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習内容 ・ 学習活動
第1時	◆体の発育・発達	○			<ul style="list-style-type: none"> ○体は、年齢に伴って変化すること。 ○体の発育・発達には個人差があること。 <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんの頃の服や靴を見る。 ・学習のねらいを知る。 ・毎年の身長伸びを示した紙テープを学習カードに貼り、友達と比較して話し合う。 ・身長が急に伸びる時期や量は個人差があることを知るとともに、体重も同様に増えていくことを知る。 ・学習のまとめをする。
第2時 (本時)	◆思春期の体の変化①	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ○思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきに変化が起こり、男女の特徴が現れること。 ○思春期には変声や発毛が起こること。 ○変化の起こり方は、人によって違いがあること。 <ul style="list-style-type: none"> ・後姿クイズを行い、男女の体つきの違いについて考える。 ・学習のねらいを知る。 ・思春期に起こる男女の体つきの変化について、話し合う。 ・体の変化が起こる時期や起こり方について知る。

				<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめをする。 ・体の発育・発達に不安を感じている児童の事例を用い、学習カードにアドバイスを記入し、発表する。 	
第3時	◆思春期の体の変化②		○	<ul style="list-style-type: none"> ○思春期には初経や精通が起こること。 ○異性への関心も芽生えること。 ○個人差はあるものの、大人の体に近づく現象であること。 ・思春期に起こる変化を知る。 ・学習のねらいを知る。 ・思春期には、初経、精通が起こることを知る。 ・事例を基に、思春期には、異性への関心が芽生えることを知る。 ・学習のまとめをする。 ・学習したことから、将来の自分へのアドバイスを考え、発表する。 	
第4時	◆体をよりよく発育・発達させるための生活	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ○体をよりよく発育・発達させるためには、適切な運動、食事、休養及び睡眠などが必要であること。 ・体の成長に必要なことについてブレインストーミングをする。 ・学習のねらいを知る。 ・発育・発達と運動の関係について知り、よりよい発育のための運動、食事、睡眠について考える。 ・学んだことを自分の生活と関連付けて学習カードに記入する。 ・学習のまとめをする。

5. 展開例 (2/4)

(1) 本時の目標

- ・ 思春期になると人によって違いがあるものの、次第に大人の体に近づき、体つきに変化が起こり男女の特徴が現れることや変声や発毛が起こることなどについて、言ったり、書いたりすることができるようにする。(知識及技能)
- ・ 思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 体の発育・発達について関心をもち、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開 □ : ねらい ■ : 学習内容 ■ : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
主な学習内容・学習活動	<p>1 後姿クイズを行い、男女の体つきの違いについて考える。</p> <p style="background-color: #ffe0b2;">どちらの写真が男子か、女子かわかるかな？</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生の時は、後ろ姿だと男女の区別が分かりにくい。 ・ 中学生だと分かりやすい。 <p style="background-color: #ffe0b2;">思春期とは、どういうことが覚えていますか？</p>	<p>○体つきの変化が分かるように、小1の男女及び中3の男女の後ろ姿の写真を用意しておく。</p> <p>○気付いた理由についても触れて聞く。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>「大人に近づくにつれて、男女の体つきには特徴のある変化が起こるようだね」と投げかけ、本時のねらいにつなげましょう。</p> </div> <p>○前時の身長伸びの学習を想起させ「発育が盛んな時期」を思春期であると学習したが、「大人の体に変化していく時期」も「思春期」の特徴であることを伝え、本時のねらいにつなげる。</p>



2 学習のねらいを知る。

大人に近づくとつれて体は、どのように変わっていくのだろう。

3 思春期に起こる男女の体の変化について話し合う。

① 班に配られた用紙に、男子の変化に当てはまるカードは男子のスペースに、女子の変化に当てはまるカードは女子のスペースに、両方の変化に当てはまるカードは両方のスペースに置いていく。

男子	両方	女子

② 黒板に班の考えを貼り全体で確認する。

思春期には、体つきに変化が起こり、男女の特徴が現れること。思春期には変声や発毛が起こること。

4 体の変化が起こる時期や起こり方について知る。

変化の起こり方は、人によって違いがあること。

5 学習のまとめをする。

・学習カードに思春期に起こる体の変化について記入し、発表する。

これから、みなさんも思春期を迎えます。思春期を迎えた自分の体はどのように変化していきますか？今日学習した思春期に起こる変化を学習カードにまとめましょう。

6 体の発育・発達に不安を感じている児童の事例を用い、学習したことを生かし、アドバイスを学習カードに記入し、発表する。

体の発育・発達に不安を感じている友達に、今日学んだことや自分の成長を想像しながら、学習カードにアドバイスを書いてみましょう。

<予想される反応>

・その気持ち、分かるよ。でも、大人に近づいている証拠だし、起こる時期や起こり方は人それぞれ違うから、早いからといって気にすることないよ。

・気にしなくて大丈夫だよ。授業でも勉強したじゃないか。大人の体になってきているのだから、恥ずかしいことじゃないよ。

○恥ずかしさを軽減するため、ゲーム性を持たせ、思春期になると、体つきや体にどのような変化があるのか、自分の生活を基に班で話し合うよう指示する。

○それぞれの班が考えた変化カードの結果を黒板に貼りに来させ、正答の多いところから全体で確認していく中で、意見が割れたところはなぜそう思ったのか理由を聞きながら進める。

○発毛については、男女両方に起こる発毛や男子に起こるひげなどの発毛があることを伝える。

○全体の確認後、思春期は、大人の体に近づくことで体つきに変化が起こり男女の特徴が現れることや変声や発毛などが起こることなどを押さえる。

○思春期の体つきの変化が起こる時期は、前時の身長の時と同じように一般的に男女差があり、人それぞれ違うことを伝える。

○男性のひげを例に、目立つ人がいたり、そうでない人がいたりするように、変化の起こり方も人それぞれ違うことを知らせる。

○学習カードにこれからの自分の体の変化を想像させ、思春期に起こる男女の体の変化や、起こる時期、起こり方は人それぞれ違うことなどを、自分の言葉でまとめるよう促す。

○友達の意見を聞いて、自分の考えに新たな視点が生まれたり、考えが深まったりしたことを学習カードの「つけ足し」部分に記入するよう助言する。

◆【知識・技能】

思春期になると、人によって違いがあるものの次第に大人の体つきに近づき、体つきに変化が起こり男女の特徴が現れることや変声や発毛が起こることについて、言ったり、書いたりしている。(観察・学習カード)

○本時の学習を生かしたり、自分の発育・発達と結びつけたりして、アドバイスを考えるよう助言する。

思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考えること。

7 教師の話を聞く。

- ・教師の話
- ・次時の予告

最後に教師は、児童の発表を通じて、自分や他の人を大切にする気持ちを育てる観点から、個人差はあるものの体つきの変化は大人になるための現象であることや発育・発達の違いなどについて、肯定的に受け止めることが大切であることの話をしていきましょう。



◆【思考・判断・表現】

思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考えている。（観察・学習カード）

- 発表で足りない部分がある場合は、教師の話で補足する。
- 学習をしてみて質問したいこと、不安や心配ごとがあったらいつでも相談してよいことを伝え、保健指導につなげる。

(3) 資料等

① 展開場面での体の変化発見シート及び体の変化カード

体の変化発見シート (A3用紙)

女	両方	男

体の変化カード (班別に色分けしたカードを用意すると、分類した結果を黒板に貼らせた時に、どの班がどのように考えたのかが把握しやすくなるため、意図的指名に繋げることができる。)

丸みをおびた体つき	がっしりとした体つき	こしはばが広がる	にきびができる
むねがふくらんでくる	のどぼとけが出て声変わりが起こる	発毛が起こる	


(ア) 学習のまとめ (学習カードの一部)


これから、みなさんも思春期をむかえます。自分の体はどのように変化(へんか)していきますか? 今日学習したことをまとめましょう。

つけ足し

③ 学習の振り返りアドバイス (学習カードの一部)

次の文は、ある小学校4年生のなやみです。学習したことを生かして、アドバイスを書いてみましょう。

 「発毛があるんだけど、来年の林間学校のおふるの時、何か言われたりしたらいやだなあ」

 _____

6. 他教科等との関連

(1) 特別活動との関連

本単元は、年齢に伴う変化及び個人差、思春期の体の変化などについて課題を見付け、それらの解決を目指して基礎的な知識を習得したり、解決の方法を考え、それを表現したりできるようにすることがねらいである。本時の学習を踏まえて、特別活動においては、学級活動(2)「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」及び「エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」と関連を図ることができる。例えば、心身の発育・発達や発育・発達による生活習慣、よりよく発育・発達するための望ましい食習慣などの指導につなげていくことも有効である。

(2) 総合的な学習の時間との関連

保健の学習を踏まえて、例えば、現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題として「生命」に焦点を当て、「生命」の尊さを考える総合的な学習の時間の単元構成を考えることができる。人の生命のはじまりから奇跡的な自分の生命の誕生について気付くとともに、自分はかけがえのない存在であることに気付くことで、自他の生命の大切さを考えさせる。また、かけがえのない生命は、多くの人に支えられ存在することを理解させ、未来の自分につながっていることに気付く等、自分史を作成させることを通して考えさせることも可能である。

出典：改訂「生きる力」を育む小学校保健教育の手引

文部科学省

小学校における展開例



第5学年「けがの防止」(体育科 保健領域)

1. 単元名 「けがの防止」

2. 単元の目標

- (1) 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付き、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であることを理解できるようにする。また、速やかなけがの手当の必要性について理解し、自分でできる簡単な手当ができるようにする。(知識及び技能)
- (2) けがの防止やけがの手当について、課題を見付けたり、解決の方法を考えたり、判断したりしたことを表現できるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) けがの防止やけがの手当について資料を調べたり、進んで課題解決に取り組もうとしたりすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

本単元は、けがの防止について交通事故や身の回りの生活の危険などを取り上げ、それらの課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止について理解するとともに、課題を解決するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現できること。また、自分でできる簡単なけがの手当ができることを目指している。「けがの手当」は、けがの悪化を防ぐために、その種類や程度の状況をできるだけ速やかに把握して処置することや近くの大人に知らせることが大切であることを理解できるようにする。また、「すり傷」、「鼻出血」、「やけど」や「打撲」などを適宜取り上げ、実習を通して簡単なけがの手当ができるようにする。その際、子どもにとって身近な場所でのけがについて取り上げたり、保健室にある実際のデータを用いたりすることで、より実践的に理解できる工夫を行っていく必要がある。

4. 単元計画

	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習内容 ・ 学習活動
第1時	◆けがの発生	○			<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎年多くの交通事故や水の事故が発生し、けがや死亡する人が少なくないこと、けがや事故は人の行動と環境が関わって発生していること。 ・身の回りで起こる事故について資料を基に現状を考える。 ・事故はどのようにして起こるのか、メカニズムを探る本時のねらいをつかむ。 ・事故やけがは人の行動と環境が原因で起こり、人の行動は心の状態や体の調子に関係していることについて、事例に当てはめて考える。 ・自分が体験したけがについて人の行動と環境から振り返り、再発防止策を話し合うことで、学習のまとめをする。
第2時	◆交通事故によるけがの防止	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ○ 交通事故によるけがの防止には、周囲の危険に気付いて、的確な判断の下に安全に行動することが必要であること。 ・交通事故について資料を基に、隠れた危険を探す。 ・なぜ事故がなくなるのか本時のねらいをつかむ。


				<ul style="list-style-type: none"> ・様々な安全施設や一時停止などの規則がなぜあるのかについて事例や自動車の特性からその理由や役割について考える。 ・交通事故に関わるヒヤリ体験について振り返り、再発防止策を話し合うことで、学習のまとめをする。
第3時 (本時)	◆ 犯罪被害の防止	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 犯罪被害の防止には周囲の危険に気付いて的確な判断の下に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。 ・地域の隠れた危険について資料を基に現状を知る。 ・犯罪から身を守るにはどうしたらよいか本時のねらいをつかむ。 ・犯罪の起こりそうな場所の原因や解決方法を考え、犯罪を防止するための方策について話し合う。 ・犯罪から身を守ることについて考え、学習のまとめをする。
第4時	◆ 身の回りの生活が原因となって起こるけがの防止 ◆ けがの手当	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校生活の事故には周囲の危険に気付いて的確な判断の下に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。 ○ けがの状況をできるだけ速やかに把握して処置することと近くの人に知らせることが大切であること ○ 自分でできる簡単なけがの手当をすること。 ・学校や地域の隠れた危険について資料を基に現状を知る。 ・事故から身を守るにはどうしたらよいか本時のねらいをつかむ。 ・事故が起こりそうな場所の原因や解決方法について考える。 ・大きなけがが起きたときの対処について確かめ、正しい手当を行うことの必要性を考える。 ・軽いけがをしたときの自分でできる簡単な手当について実習を行う。 ・実習したけがの手当を基に他のけがが起きた時の対処に当てはめることで、学習のまとめをする。


5. 展開例 (3/4)

(1) 本時の目標

- ・身の回りの生活の危険が原因となって起こる犯罪の防止には、周囲の危険に気づき、的確な判断の下に安全に行動することを理解できるようにする。(知識及び技能)
- ・危険の予測や回避の方法について、課題を見付けたり、解決の方法を考えたり、判断したりしたことを表現できるようにする。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
主な学習内容・学習活動	<p>1 地域の隠れた危険について資料を基に考える。</p> <p style="background-color: #FFDAB9; padding: 5px;">誘拐や暴力などの犯罪の危険がかくれているのは、どんな場所でしょうか。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・物かけ ・エレベーター内 ・駐車場や人気のない公園 など 	<p>○資料を基に個人で考え、その後、それぞれの考えを全体で共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>児童の自由な発想を大切にしながら、様々な状況について考えられるようにしましょう。</p>  </div>

<p>2 学習のねらいを知る。</p>	
<p>犯罪被害から身を守るには、どのようにすればよいのか考えよう。</p>	
<p>3 犯罪が起こりやすい場所について知る。</p> <p>犯罪が起こりやすい場所に特徴はあるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲から見えにくい場所 ・人気のない場所 ・暗い場所 <p>4 犯罪被害から身を守るための行動について知る。</p> <p>これからどんなことに気を付けたらよいかな。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険な場所には行かない。 ・1人にならない。 ・遅くまで遊ばない。 <p>犯罪被害から身を守るために、犯罪が起こりやすい場所をさけること。</p> <p>5 犯罪から身を守るための方策について話し合う。</p> <p>次のケースにおいて、それぞれの危険を予測して自分たちが正しいと思う安全な行動について、グループで多くの方法を出し合ひましょう。</p> <p>○ケース1 「学校からの帰り道、知らない人があとをつけてきます。」</p> <p>○ケース2 「1人でエレベーターに乗っていて、ドアが閉まる直前知らない人が乗ってきました。」</p> <p>○ケース3（予備用） 「インターネットで、知らない人からメッセージがきました。」</p> <p>学習したことを活用し、危険の予測や回避の方法について考えたり、伝えたりすること。</p>	<p>○導入で挙げられた場所を基に、その特徴について考えるようにする。</p> <p>○自分の生活する地域にも、同様の場所があることについても目を向け、理解できるようにする。</p> <p>○心の状態や体の調子が的確な判断や行動に影響を及ぼすことについても触れる。</p> <div data-bbox="890 696 1257 898" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>児童の自由な発想を大切にしながら、様々な状況について考えられるようにしましょう。</p> </div>  <p>○ケースごとに区切りながら進める。</p> <p>○短冊に記入し、黒板に掲示することで、全体に共有ができるようにする。</p> <p>○各ケース、様々な状況について想定し、話し合う活動を行うことで、危険を予測する力、そして状況に応じた対応力について高めていく。</p> <p>○犯罪に巻き込まれそうになったら、すぐに助けを求めたり、大声を出したり、近くの家へ逃げ込んだりすることなど、回避する方法にも触れる。</p> <p>◆【思考・判断・表現】 危険の予測や回避の方法について、課題を見付けたり、解決の方法を考えたり、判断したりしたことを他者に伝えている。 (観察・学習カード)</p>
<p>6 犯罪から身を守ることについて考え、学習のまとめをする。</p>	<p>◆【知識・技能】 身の回りの生活の危険が原因となって起こる犯罪の防止には、周囲の危険に気づき、的確な判断の下に安全に行動することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (観察・学習カード)</p>

(3) 資料等

教科書の資料を活用する。

参考：改訂「生きる力」を育む小学校保健教育の手引

文部科学省

小学校における展開例



第6学年「病気の予防」(体育科 保健領域)

1. 単元名 病気の予防

2. 単元の目標

- (1) 病気の予防について、課題を見付け、その解決に役立つ基礎的な事項を理解することができるようにする。(知識)
- (2) 病気の予防をするために、課題を見付け、その解決に向けて思考し、判断するとともに、それらを表すことができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 病気の予防について関心を持ち、学習活動に進んで取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

本単元では、病原体が主な要因となって起こる病気や生活行動が主な要因となって起こる病気を取り上げ、病気の起こり方の四つの要因とその解決のための基礎的事項を理解させる。そして、それに関わる課題を見付け、その解決の方法を考え、適切な方法を選び、それらを友達に説明できるようにするとともに、生涯にわたって自己の健康を保持増進するために進んで取り組む態度につながる資質・能力を身に付けさせたい。

また、学習指導要領の内容の取扱いにおいて、「各領域の内容については、運動領域と保健領域との関連を図る指導に留意すること」と記述されていることから、特に全身を使った運動を日常的に行うことが、大人になってからの病気の予防方法としても重要であること、各運動領域で学習したことを基に日常的に運動に親しむことの関連を具体的に考えさせたい。

さらに、個人の健康と地域社会のつながりに関わって、地域の様々な保健活動の取組について理解させ、小学校の保健領域のまとめとして、中学校の保健分野への橋渡しとなるような指導を行いたい。

4. 単元計画

	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習内容 ・学習活動
第1時	◆病気の起こり方	○	○		○ 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合って起こること。 ・今までに自分や家族がかかった病気 や、知っている病気を発表する。 ・病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わりあって起こることを知る。
第2時 (本時)	◆病原体が主な要因となって起こる病気の予防	○			○ 病原体が主な要因となって起こる病気には、インフルエンザや結核、風疹などがあること。 ○ その予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。 ・病原体が主な要因となって起こる病気には、インフルエンザや結核、麻疹、風疹などがあることを知る。 ・その予防には、病原体の発生源をなくすこと、病原体が体内に入るのを防ぐこと、体の抵抗力を高めておくことが必要であることを知る。

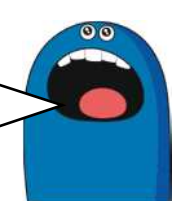
第3時	◆生活行動が主な要因となって起こる病気の予防①	○	○生活行動が主な要因となって起こる病気には、心臓や脳の血管が硬くなったりつまったりする病気があること。 ○その予防には、日常的な運動習慣と望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。 ・生活行動が主な要因となって起こる病気には、心臓や脳の血管が硬くなったりつまったりする病気があることを知る。 ・その予防には、日常的な運動習慣と望ましい生活習慣を身に付ける必要があることを知る。
第4時	◆生活行動が主な要因となって起こる病気の予防②	○	○生活行動が主な要因となって起こる病気には、むし歯や歯ぐきの病気があること。 ○その予防には、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。 ・自分の生活の経験から、むし歯や歯ぐきの病気が起きる原因について考える。 ・その予防の仕方を知り、学習したことをもとに、自分の生活に当てはめてみる。
第5時	◆喫煙と健康	○	○喫煙は、健康を損なう原因となること。 ・喫煙による健康への影響について調べる。 ・受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすこと、低年齢からの喫煙は害が特に大きいこと、法律で禁止されていることを知る。 ・好奇心や周りの人からの誘いなどがきっかけで喫煙を開始する場面があることを知る。
第6時	◆飲酒と健康	○	○飲酒は、健康を損なう原因となること。 ・飲酒による健康への影響について調べる。 ・低年齢からの飲酒は、害が特に大きいこと、法律で禁止されていることを知る。 ・好奇心や周りの人からの誘いなどがきっかけで飲酒を開始する場面があることを知る。
第7時	◆薬物乱用と健康	○	○薬物乱用は、健康を損なう原因となること。 ・薬物乱用による健康への影響について考える。 ・1回の乱用でも死に至ること、乱用を続けると止められなくなること、その結果、心身の健康に深刻な影響を及ぼすことを知る。 ・薬物の乱用は、法律で厳しく禁止されていることを知る。
第8時	◆地域の様々な保健活動の取組	○	○地域では、保健にかかわる様々な活動が行われていること。 ・地域には、人々の病気を予防するために保健所や保健センターがあることを知る。 ・そこでは、健康な生活習慣にかかわる情報提供や予防接種などの活動が行われていることを知る。 ・病気を予防するために、地域で行われている様々な保健活動の例について調べる。


5. 展開例(2/8)

(1) 本時の目標

病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であることを理解できるようにする。(知識及び技能)

(2) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
主な学習内容・学習活動	<p>1 前時に学習した、病気が起こる4つの原因を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病原体、体の抵抗力、生活行動、環境 <p style="background-color: #FFDAB9; padding: 5px;">病原体がもとになっておこる病気には、どんなものがあるかな。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザ、新型コロナウイルス、風疹 等 	<p>○病気の原因について振り返りを行いながら、病気の予防について本時の学習につなげる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>病気のほとんどは一つの原因だけではなく、いくつかの原因が重なっておこることを確認する。</p>  </div>

<p>2 感染症の意味について知る。</p> <p>感染症とは病原体がもとになって起こる病気のこと。</p> <p>3 感染症の種類について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に空気を介してうつる インフルエンザ、結核等 ・飲食物などに混じって口から入る ノロウイルス、O-157 等 ・血液や粘液等介してうつる H I V 	 <p>○指導上の配慮事項として、最近では治療法も進歩し、薬によってエイズの発症や、進行をおさえることができるようになってきていることも伝える。</p> <p>H I Vについては、教科書内の資料等で触れる。</p>
<p>4 インフルエンザを例に感染症の予防について理解する。</p> <p>インフルエンザの予防法を考えよう。</p> <p>インフルエンザの予防法について考えよう。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い ・うがい ・マスク ・適度な温度、気温 ・予防接種 ・運動 ・好き嫌いしないで食べる 等 <p>みんなで考えた予防法について、グループ分けをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病原体が体に入るのを防ぐこと ・体の抵抗力を高めること ・その他 <p>の3つに分けていく</p>	<p>○まずは個人で考え、その後グループ協議にて、それぞれの考えを共有する。</p> <p>○グループ協議で出た考えをカードに記入し、黒板に掲示し、全体で共有する。</p> <p>○重複する考えは一つにまとめていく。</p> <p>○児童の考えを尊重しながら、最終的に「病原体が体に入るのを防ぐこと」「体の抵抗力を高めること」「その他」にまとめていく。</p>
<p>5 学習のまとめを行う。</p> <p>病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。</p> <p>今後、実践していきたいことを学習カードに記入しよう。</p>	<p>◆【知識・技能】</p> <p>病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であることについて理解したことを、言ったり書いたりしている。(観察・学習カード)</p>

(3) 資料等

教科書の資料を活用する。

参考：改訂「生きる力」を育む小学校保健教育の手引
文部科学省